

理学Nanyangコース

- サイエンスを基本として異文化・異分野の理解に重点をおいた海外学修プログラム
- **学生企画型プログラム** → 総合教養科目・「グローバルチャレンジ実習」として**1単位認定**
- 研修先：**南洋理工大学・理学部**(Nanyang Technological University、College of Science、シンガポール)(2～3週間(8, 9月))
- 対象学生：学部2年生
- 募集人員：2名

1991年に設置されたシンガポールにある国立大学の一つである。新興でありながら、QS世界大学ランキングにおいて2016年は総合13位(アジアでは2位)であり欧米の最上位校に匹敵するエリート校である。大学はエンジニアリング、サイエンス、ヒューマニティ、アート&ソーシャルサイエンス、メディカルの4つの「カレッジ」から構成され、各「カレッジ」の下に日本での学部に対応する「スクール」が属している。サイエンスの下には生物科学、数物科学、アジア環境がある。神戸大学とは2016年に全学大学間協定が締結された。

問合せ先： 齋藤政彦 mhsaito@math.kobe-u.ac.jp (変更予定)



平成29年度理学グローバルチャレンジプログラム コース内容詳細

理学Nangyangコース

申請部局	理学研究科	実施責任者	つばき もとなり 鏑木 基成		連絡先(内線)	6582			
実施年度	平成 29 年度	コースの名称(略称)	理学グローバルチャレンジNangyang/Sciコース (理学Nangyang)						
学生募集	開始年月日(予定)	平成 29年 1月 5日	募集対象学生	所属部局(全学部・自学部・他学部)	他学部特定の場合記入	学年	人数(見込み)		
	終了年月日(予定)	平成 29年 3月 27日		自学部		2	1		
参加学生決定年月日(予定)	平成 29年 4月 15日								
コース実施期間※	平成 29年 4月 15日 ~ 平成 29年 9月 30日 (169 日間) ※実施期間は30日以上1年以内、うち事前学修指導5日以上、学外学修実施10日以上、事後学修指導5日以上								
コースの概要	「サイエンスにおける異文化・異分野の理解と文理融合」をテーマとして3つのタイプの海外学修プログラムを提供する。英語研修に重点をおいた海外学修プログラム(①)(期間、3週間)と、サイエンスを基本として異文化・異分野の理解に重点をおいた学生企画型の海外学修プログラム(②、③)(期間は任意、14日間以上30日未満)である。③「理学Nangyang」コースでは学内での事前学修を4月～8月に行った後、8月～9月に学外(海外)学修を2～4週間行う。帰国後、事後学修を9月下旬に行う。								
期待される効果・学修目標	理学グローバルチャレンジで提供する3つのコースにおいては、基本となるサイエンスを学ぶだけでなく、異文化に身を置くことにより、自らの置く専門分野以外のサイエンスをも含めてより総合的に学ぶことによって、サイエンスの理解をさらに深化させる。ある一定期間の異文化での生活や学修体験を通じ、自分自身への理解を深めたり、新たな興味を持つ事柄や、より追求したい学修テーマを自主的に発見する機会とする。③「理学Nangyang」コースは特に数物科学・化学分野での研修に重点をおいたプログラムである。								
事前学修(期間・内容)	期間(予定)	平成 29年 4月 15日 ~ 平成 29年 8月 15日 (123 日間)							
	うち指導日数(5日以上)	10	指導時間数(5h以上)	10	自己学修時間数(見込み/h)	30	内容	学生は英語外部試験を受験し、外国人留学生TAによる英会話能力の向上をはかる。同時にアドバイザー教員の指導の下、受入先教員との間で詳細な学修目標・計画を記入したチャレンジシートと企画書を作成し提出する。危機管理オリエンテーションおよびOSSMA講習会に参加し、安全管理について学ぶ。	
学外活動学修(派遣先・期間・内容)	【チャレンジターム】派遣期間(予定)	派遣先(国名)	南洋理工大学・理学部 (シンガポール)						
	内容	平成 29年 8月 15日 ~ 平成 29年 9月 20日 (21 日間)							
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 南洋理工大学・理学部(Nanyang Technological University/College of Sciences)を派遣先とする2年次理学部生(数物科学・化学分野)を対象とする学生企画型の学修プログラムである。 派遣を希望する学生は、十分に前もって実施責任者にコンタクトを取る必要がある。派遣を希望する学生は実施責任者を通して、研修希望先の受入可能教員と連絡をとり、企画書(元案)を作成する。 応募書類と共に企画書(元案)を提出し、書類及び面接審査の上で派遣の可否が決定される。 派遣が決定した学生は、事前学修の期間中において、さらに海外研修先での企画活動案の内容を受入予定教員との間で詰め、チャレンジシートにまとめる。 派遣先にて学生ごとに前もって作成した自らの学修計画に基づき、学習プログラムを実践する。学生は派遣期間中はBEEFを利用して、自己の活動内容や学修したことを実習日誌として作成し、事後学修のための資料とする。 							
事後学修(期間・内容)	期間(予定)	平成 29年 9月 21日 ~ 平成 29年 9月 30日 (10 日間)							
	うち指導日数(5日以上)	6	指導時間数(5h以上)	10	自己学修時間数(見込み/h)	30	内容	派遣先での学修について、振り返りを行い、リフレクションシートを作成・提出する。全学で実施される「グローバルチャレンジ合同報告会」に向け、プレゼンテーションの準備を行う。	
認定単位数	単位数※(予定)	事前指導時間	10	＋学外活動学修時間	57	＋事後指導時間	10	= 合計学修時間	77
			1	※「事前指導時間＋学外活動学修時間＋事後指導時間＝45時間／1単位」が必要					
備考	募集期間の終了年月日は平成29年3月27日(月)を予定しているが、1ヶ月程度延長予定である。詳細は鏑木基成まで(E-mail: mtsubkai@kobe-u.ac.jp) (変更予定)お問い合わせください。								